

新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る教育活動およびデジタル授業の実施についての公開質問状

(5月28日正午までの回答を要求)

1 デジタル授業は、児童生徒にとってどの単元がつまづきやすいか、自宅学習でも行える内容か、単元の入れ替えや合科的な扱いで効果的に行える学習はないか、長いスパンで取り返せる学習内容は何か等、何の検討も説明もなく、教科書の配列通りで予定表に押し込めたものではないかと、わたしたちはとらえています。また1コマ40分としながら、1日では取り組めないほどの学習量を課すものがあつたり、6時間単元を3コマに短縮したりするなど、学習者に過度な負担を強いています。このデジタル授業の教育施策は、本来、教育課程の編成権は各学校にあるという教育の条理を無視し、直接子どもと保護者に責任を負っている学校を軽視するものであり看過できません。さらに一方的に授業を決めておきながら、学習状況の把握やフィードバックの実施等の業務を学校に強いるばかりでなく、ネット環境の整っていない家庭への対応も各学校に丸投げしています。学校に行くことができないう休校中だからこそ、家庭や地域から信頼される学校づくりは急務です。今、わたしたちは、委員会の施策の業務の追われていく日々です。退勤が深夜近くに及び、分散勤務日でもないのに出勤しなければならなかった状況だという報告も届いています。

なぜ各学校の創意工夫や実態を無視し、トップダウンの施策を行い続けるのか、示された時間割の内容・学習量は適切なものか、その根拠は何か、そして6000人の教職員があたかも積極的に「一丸となって」行ったかのように広くアナウンスしたことについても説明を求めます。

2 デジタル授業の作製の休校中の学習保障のためではなく、「ICT教育の一環」であると説明を受けました。わたしたちの願いは子どもたちの学習保障であり、教育のICT化ではありません。セキュリティや接続等に関わる混乱も予測される上、出来上がった動画は、作製意図も内容もばらばらな可能性があり、さらに教科書の写真・図などが使えないため、各学校でも作製に困難を極め、質的にも不十分であることが予想されます。著作権法改正で教科書の使用が認められたにもかかわらず、教科書の使用が許されなかった理由および、共通理解が図られていない中で作製した本市のデジタル授業が休校中の学習支援として十分と言えるのか、そしてなぜ今、学習保障ではなく、教育のICT化なのかについて説明を求めます。

3 ネット依存の危険性が高まる中、YouTubeが児童生徒への学習支援の方法として適切なのでしょう。 「不登校・ひきこもり」問題とネットゲーム依存は深くつながっており、誰にでも起こりうる問題です。また急ぎIDやパスワードを設定するも、結局はアクセス集中による不具合で外され混乱を招きました。容易に予想される問題に対して対処もできず、更にそれを承知で見切り発車したこと、教員の肖像権等に十分な配慮も説明もないこと、全くセキュリティ配慮がなされない状況で、動画配信が行われる中、今後起こり得る問題とその対策について説明を求めます。

4 デジタル授業は、オンラインであるためネット環境が整った家庭、双方向のツールではないため大人の支援が得られる家庭であることが前提です。家庭の学習環境の差が学力差を生むような施策であってはならないはず。ネット環境が整わず、学校のPCルーム等を使用したくても、登下校の安全が確保できないため参加できない子どももいます。デジタル授業自身が、子どもの学力差を生じさせることを懸念しています。どの子どもにも、基礎的・基本的な学力を習得する機会の保障としてデジタル授業がなぜひさわしいのかについて説明を求めます。

5 デジタル授業および休校中の学習状況の把握は、必ずしも成果に結び付かないことが予想でき、むしろ家庭での学習に取り組めない子どもこそ支援が必要です。デジタル授業に参加できない、もしくは大人の支援が得られず、学校からの課題も含め負担に感じる子どもたちがいることが想定される中で、どのような評価を想定しているのか、説明を求めます。

6 デジタル授業の開始に伴い、今までの預かり児童の数を越えることが想像できます。来校した子どもと教職員のいのちと健康を守るための具体策が何ら示されていない中で、PCルームの開放や課題の受け渡しが行われようとしています。(ちなみに、病院ですらキーボードの共有は院内感染の原因の一つとも報道されていました。)相当数の児童が来校した場合の対応および感染防止の対策について、子どもと教職員を守るという両方向の観点での説明を求めます。

7 学校の再開にあたっては、子どもに感染の可能性がある症状が出た場合に際し、特段の対応策が示されているように感じられませんが、長い休みで、心や体の不調を訴える子どもたちも多くなることも予想されます。教室にいることを苦痛に思う子どももいるでしょう。そのために、養護教諭・相談員の追加配置やマスク・消毒等の物資の確保、相談体制の充実など、具体的な対策について説明を求めます。

以上



閑話

分散出勤して、



とても気がかりなのは自分の担当の植物の管理です。気温も上がり、晴れが続くと3日に1回の水やりでは当然足りず、委員会の子どもたちを呼ぶこともできないので、別日の出勤の先生に頼んだり、水の量を調整したりしてなんとか持たせています。でも、花のとても多い美しい時期。2年生の子どもたちと育てたビオラが、鉢から溢れるように咲いていました。教材を取りに来てもうとくに、同時に持つて帰るようお願ひしました。花壇には冬のからの花、ノースポールやパンジー、撫子、ネモフィラ、リナリア：花盛り。玄関のプランターにはキセンカとアマリリスが咲き競っています。植えた子どもたちももう花が咲き始めました。誰が見られることもなく咲いています。美し